

路上生活者支援—偏見という壁を乗り越え

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

ことわざ:「外見で人を判断するなかれ」。「容姿や背の高さに目を向けるな。人はうわべ、目に映ることを見るが、主は心によって見る」(旧約聖書、サムエル記上第16章)。とは言え、人間は外見や根拠のない風評で人を見てしまうものです。特に最近の気になるはやり言葉「ルッキズム」、外見至上主義的な人の見方には危機感すら感じてしまいます。

2008年12月30日、リーマン・ショックという世界的な金融危機による不況のため、東京の日比谷公園には派遣切りにより、職と住まいを失った人々があふれていました。山梨県でも甲府駅周辺を中心に、突然ホームレス状況に追いやられた方々が急増していました。寒さと空腹、出口のない不安の中にある人々のために、せめて温かい味噌汁とおにぎりを食べてもらおうと、労働組合と宗教団体の有志が中心となり、駅に近いカトリック甲府教会で炊き出しを実施しました。

この第一回目の炊き出しを契機に、地域における人的つながりを通して、何人も社会において孤立せず、健康で文化的な最低限の生活を営むことのできる社会の実現を活動目標として、2009年11月に4団体と20名の有志が中心となって、「やまなしライフサポート」が設立され、路上生活者や生活困窮者の自立支援のための活動が開始されました。炊出しへの案内と新たに路上生活者を発見する目的で、「見守りパトロール」もスタートしました。活動をさらに進展させるのに必要となってきたのが、路上生活者が気軽に集える居場所でした。

甲府駅や炊き出し会場のカトリック甲府教会に近い場所で、風呂や台所があり、相談室と緊急な場合は宿泊も可能と思われる物件が見つかりました。周旋屋さんに相談してみると、予算的にも可能なので手続きを開始することになりました。そして大家さんに施設の用途説明をするように言われたので、路上生活者や生活困窮者の支援に関するライフサポートの活動を具体的に説明しました。しかし、その結果はあ

まりにも悲しい世間の現実でした。「そんな得体の知れない人間が集まるような団体には家を貸さない。帰ってくれ！」。別の物件も最終的には全く同じ理由で拒絶されました。

平成25年度の「山梨県ホームレス対策連絡会議」で、やまなしライフサポートが報告した記録によると、当時県下の18の橋と10の公園で野宿していた39名の方々に、弁当配布や炊出しを通して、就労支援も実施しました。最近のようにご理解のある協力事業主さんがいなかった上に、外見や風評による厳しい差別もありました。

そんな逆境の中で、路上生活者を採用し、準備期間はアパートを提供し、その上仕事の現場である福島県まで交通費も負担してくれる会社に巡り会いました。甲府市にあったこの会社に、面接のため路上生活者を車で案内したり、採用決定して会社2階のアパートで待機している方を訪問するためによく出かけました。厳しい顔つきの社長とその甥だという若い副社長さんから現地福島の状態を話してもらいました。大手ゼネコンから除染作業と震災で破壊された高速道路の復旧事業を請負っているとのことでした。

会社からの連絡のために、若い社員が炊き出し会場に連絡や求人のために来たこともありました。この場面を誰がどう判断したのか、社員の服装や外見からか、「中山理事長が反社会的な人間と組んで就労支援をしている」と判断されたようでした。

やまなしライフサポートの理事と運営委員が集まって隔月で開かれている会があります。その会でこの会社への就労支援を強く非難する発言がありました。「除染作業は科学的にも危険な仕事なので、それを斡旋するのは非道だ」との批判さえありました。

除染作業は国の責任で厳重に安全管理がなされ、厚労省が直接健康管理をしていたと、作業経験者が話してくれたことを明記しておきます。

2022年度の主な活動実績

2021年4月～2022年3月 人数は延べ数

食料配布(炊出しに替えて)	1,667名(51回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	348泊(38名)
健康相談	1,706名(143回)	生活保護申請同行	16名(受給実績16名)
路上生活者面談	69名(55回)	就労相談、就労サポート	133名(就労実績17名)
生活保護・年金受給者面談	201名(152回)	見守りパトロール	139名(67回)

特集 就労支援

昨今のコロナ禍や国際情勢の不安定化に起因する諸物価高騰より私達の生活は苦しさを増しています。とりわけ生活困窮者は過去に経験したことの無い厳しさに遭遇しており、中でも失業された方々の再就職には大きな障害が立ちはだかっています。

やまなしライフサポートは関係機関・団体との連携により、生活困窮者の就労支援に取り組んでいますが、本号では当法人独自の就労促進施策と就労事例を紹介します。

就職活動に困難を抱えている方々

当法人が就労支援する方々は、様々な困難を抱えています。

- ・携帯電話が無い又は料金滞納で使えない
- ・身分証明書(運転免許証、マイナンバーカード、保険証等)がない。
- ・住居(住所)がなく、住民票が抹消されている。
- ・受刑歴がある。入れ墨やタトゥーがある。
- ・お金がなく、面接に行く交通費や服装を準備できない。

以上のような事情を抱えている方は、単にハローワークに行けば就職活動のルールに乗れるというわけではありません。

協力事業主連携による早期就労支援

抱えている阻害要因を克服するため、ハンディキャップを負っている方々の就労に理解のある事業主の開拓に努めています。現在県内外の10社を超える事業主さんから協力をいただいています。

事業主さんに配慮をお願いしている事項

- ①早期の就労開始に向けての住いの提供(寮/アパート)
- ②本人確認証のない方・住民登録がなくなった方へのご理解
 - ・本人確認するための免許証やマイナンバーカード等不所持の対象者には、緊急宿泊施設(ライフ荘)利用期間中にマイナンバーカードの発行手続支援をします。
- ②面接会場に当法人会議室を提供
 - ・事業主さんには、当法人会議室を面接会場としてご活用の上、採否結果を早期にご判断いただいています。
- ④面接/就労に至るまでの本人との連絡手段について
 - ・大半の方が携帯電話等を保有しおらず、当法人が関係者との連絡調整業務を担当する了解を得ます。
- ⑤緊急宿泊施設利用限度期間(2週間以内)での就労決定
 - ・通常の就労決定までは、ハローワークへの申し込みから最低3~4週間を要します。
- ⑥就労面接では、本人の人物像と現在の就労意欲を尊重いただき、過去の経歴に捉われない対応をお願いしています。
- ⑦就労開始当初は給料の日払い等の配慮
 - ・就労時は大半の方が当座の生活資金を持っていません。事業主さんに給料の日払いや一部前払いの配慮をお願いしています。

関係行政機関との協議による特例対応

1. 緊急宿泊施設(ライフ荘)利用限度期間(2週間)内で適職が探せず、更なる時間を要する場合は、例外的措置として利用期間の延長を個別に設定しています。
2. 健康上早期の就労が困難と判断した場合は、ライフ荘利用後暫定的に生活保護を受けながらの通院治療を支援します。

就労支援結果

最近3年間の就職は次のとおりです。

	協力企業への就職	ハローワーク、求職サイト経由の就職
2019年度	15名	4名
2020年度	9名	5名
2021年度	17名	1名

支援事例1 見守りパトロールでの出会い

【経緯】3年前の4月甲府市内を見守りパトロール中、甲府駅北口広場でMさん(50代男性)に出会いました。1ヶ月前に8年間勤務していた製造会社を解雇され、寮を退去し甲府駅近辺で路上生活中である事がわかりました。その場で当法人のリーフレットを手渡し、就労／生活支援について説明しました。10日後Mさんが突然来所された事が就労／生活支援活動のスタートとなりました。

【支援内容】当法人は甲府市の自立相談支援(就労支援)を利用するため市役所を同行訪問し関係者と相談の上、ワークプラザ甲府(ハローワーク)に求職登録し就労活動をはじめました。求人情報の提供を受け数社に応募しましたが、いずれも面接段階には至りませんでした。この状態では早期の就労は困難と判断し、生活困窮者の就労に理解のある県外の製造請負会社の仕事の内容を説明したところ本人から応募する意思表示がありました。その後甲府市の許可を受

けて緊急一時宿泊所ライフ荘を1週間利用いただく中、履歴書作成や面接対応指導を行い当事務所で面接を受け採用に至りました。

【現状】3年が経過した現在、Mさんは職場の班長さんとして衛生用品の製造ラインに資材を投入運搬する業務を任せ活躍しています。(事業主さんの評価)ご本人からの連絡もあり、見守りパトロールでの出会いが自分の成長に繋がったと述べていました。



フォークリフトの免許を活かして活躍するMさん

支援事例2 海外で調理の仕事をしています

【経緯】2年前の4月、甲府市役所からの生活／就労支援要請を受けNさん(50代男性)と面談しました。

調理の仕事に30年間従事していましたが、勤務していた飲食店がコロナ禍で閉店となり失業しました。Nさんは知人の紹介でインドネシアのホテルに就職が内定していましたがコロナ禍で採用時期は未定の状態。独立事業主扱いのため退職手当なども一切なく、市内の住いを出て店舗で寝ていましたがそこも退去させられ市役所に助けを求めてきました。

【支援内容】市役所の許可を受けライフ荘を2週間利用いただく中、本人がハローワークでの求職活動を進める様勧めしました。本人はこの間県内外数社に応募しましたがコロ

ナ禍のため就労は実現しませんでした。ライフ荘の利用限度期間も特別延長しましたが今後の見通しが立たないため本人の意志も尊重し、市役所に相談の上暫定的に生活保護を受給しながら就労先を探す事となりました。以降海外の知人の協力を受け独自で就労活動に取り組んでいました。

【現状】2020年10月NさんよりEメールがありスロバキアのホテルで働いている連絡があり、2021年4月にはマレーシアで仕事(調理)をしていますとの連絡がありました。メールには「ライフサポートの皆様こんにちは。4月14日から勤務しています。ライフサポートのみなさんに助けて貰い、ケアして貰った事は本当に忘れません。本当にありがとうございました。また連絡します。N」(原文写し)と記載されていました。

支援事例3 3回目の就労支援を通して

【経緯】今年1月甲府駅周辺で路上生活をしているSさん(60代男性)と再会し食料を支援しました。

Sさんは昨年、当法人が就労支援した2事業所を連続して短期間で離職した方でした。本人に念のため再び働く意志を確認したところ、路上生活は辛いので早く働き先を探したいとのことでした。

【支援内容】当法人としては3回目の就労支援は困難と判断する傍ら、Sさんの路上生活の長期化も見逃せないと考えました。そこで生活困窮者の就労に理解をいただく県内の土木解体事業主に打診したところ、面接の機会を得る事が出来ました。幸い本年2月からの住いの提供を含めたトライアル雇用の実現に至りました。

【現状】4月現在職場の仲間とも円滑な関係を維持し業務に精励しているとの事でした。今後の職場での定着を期待しています。

今後の取組みと課題

早期就労事例のポイントは就労に理解のある事業主さんのお力添えにあります。今後も更なる就労職域の拡大に努めます。また最近ではメールやSNSを利用した支援要請も多く寄せられており、最新の情報手段を活用した迅速な就労支援活動に取り組んでまいります。

食料配布をしています

コロナ禍で炊出しが中止となった代わりに、炊出し会場で毎週木曜日に食料を配布しています。低年金者や障害をお持ちの方、生活保護の方など毎回40名前後が来場されています。

フードバンク山梨様からの提供品以外に、最近では自治体や社会福祉協議会からの災害用備蓄食料の入替え品も多

数頂いており、また米穀店からお米、農家からは野菜の寄付があります。

会場では体温測定や手指消毒の後食料をお渡しし、希望者には看護師による健康相談や、相談員による生活・就労相談を行っています。



配布風景



5月12日の配布内容
 精米3合、アルファ米4食、
 ライスクッキー3箱、カップ麺1

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

(炊出しは現在休止中のため、再開次第お知らせします)

・毎週木曜日 午後2時～5時(一部でも可)

カトリック甲府教会にて(甲府市中央 2-7-10)

・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。

・マスク、エプロン、三角巾をご準備ください。



炊出しメニューの例

カレーライス、みそ汁、ちくわと大根の煮物、ゆで卵、野菜サラダ、漬物他

2. 見守りパトロール

・隔月第3日曜日 午後2時～4時30分頃 カトリック甲府教会集合

(8月、12月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)

・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

物品のご寄付を募っています

家を失った方が新たにアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願います。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、
 小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
 電気ポット、自転車、カーテン、布団

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権あり)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。